

豊かな体験を通した学びフォーラム 2017



横浜の人や自然から学ぶ 横浜の子どもたち

今年も大勢の皆さんのご参加
有難うございました。

開催報告



会場

横浜市立大学YCUスクエア

主催

一般社団法人 横浜すばいす
豊かな体験を通した学びフォーラム実行委員会

協力

LOCAL GOOD YOKOHAMA

後援

横浜市教育委員会 こども青少年局

2017. 1. 21. 14時～17時

14時 開会 総合司会 梅田比奈子・池田孝（フォーラム実行委員）

開会の言葉 フォーラム実行委員長 尾上 伸一 横浜すばいす理事

豊かな体験を通した学びフォーラム2017 開催の趣旨

横浜の教育（子育て）現場では、幼稚園・保育園・小学校・中学校・特別支援学校が連携して、横浜の財産である地域の自然や社会、人とのかかわりながら、体験的な学びを創りだす実践が根付いています。これらの実践は、地域・市民・そして企業の力に支えられてつながり合い、横浜全体が子どもの学びの場、生活の場としてのフィールドになっています。

昨年（2016年）には、初めて市民フォーラムとしてアクセンチュア株式会社みなとみらいオフィスを会場に、横浜の子ども「豊かな体験を通した学びと育ち」を語り合う場をもちました。そして私たちが住み暮らすまちの中で、子どもたちの豊かな体験を通した学びを創造するために、地域・園・学校…は、何ができるのかを考えあい、36のアイデアが出されました。（この時に発表されたアイデアについては、次ページをご覧ください。）

今回のフォーラムでは、横浜市立大学の新校舎YCUスクエアを会場に、この36のアイデアがこの1年間で実現に向けてどのように動き出しているのかを検証できるように「保育園→小学校→中学校→特別支援学校」の地域とつながる実践提案、そして市民の側から「地域、法人、専門学校、企業、行政」の園や学校を舞台に繰り広げられた実践提案を行っていただきました。ここでの8つの提案を受けて、参加者100名で「豊かな体験を通した学び」の次のアクションについてワークショップを通して考えあう時間をもちました。ここではそんなフォーラムの様子を報告させていただきます。





○市民・関係団体・企業等・・・24名 ○学校地域コーディネーター・PTA 関係者・・・7名
 ○大学・元校長等・・・4名 ○幼稚園・保育園・・・8名 ○小学校・・・33名
 ○中学校・・・10名 ○特別支援学校・・・3名 ○行政機関・・・12名（合計101名）

2016（前年）フォーラムで出された36のアイデア

●地域・学校コンシェルジュ ●～小を語る会からのノミュニケーション ●横浜教育基金
 LONE税 ●地域力“うちののこすち” 作戦 ●ふれ愛広場タウンフェスティバル
 ●（愛）爆売りツアー ●愛デアBANK ●横浜シュウマイ祭 ●地域楽校 ●食飲会議
 ●おせっかいプロジェクト ●突撃！だれでもおとなりさん ●まちの楽校 ●名付けあいさつ
 ●共育Bar ●地家組織 ●町内居酒屋化計画 ●アドベンチャーSchool
 ●アピール作戦 ●デジアナ掲示板 ●地域コーディネーター倍増作戦 ●集う・つながる・つむぐ作戦
 ●スクールサロン&カフェ ●地金学空 ●地域の先生宣言 ●スクールファウンディング
 ●学校に「えんがわ」を ●ハッピーランド みんなで食べようの会 ●地域から学校へ突入
 ●学校から地域へ飛び出せ ●学校はふるさと ●生徒と具体的な目標づくり
 ●これできるよ宣言プロジェクト ●おせっかいプロジェクト ●地域プライド ●かっこいいところ発見プロジェクト



釜利谷保育園 「ピーマン栽培」 奥住祐子保育士

3歳児クラスの子どもたちが、ピーマンの栽培活動を通して得た喜びや、それをきっかけに広がった活動について紹介。



豊かな体験を通した学び

～ピーマンからはじまったhappy～

土づくりから始まったピーマンの栽培活動。苗植えを植えたあとは、水やりに一生懸命取り組みました。日々成長するピーマンの様子に喜ぶ子どもたち。収穫の時には一人ひとりがとても嬉しそうでした。収穫後は「バーベキューしたい」という子どもの声から、子どもたち自身で調理することになりました。洗う、種を取る、包丁、炒めるなどを自分たちで行って出来上がったピーマン 18 個分の炒め物はあっという間にみんなで食べきりました。その体験からか、家庭で野菜を食べないという子どもたちの保護者からは「ピーマンだけは食べられるようになりました」「ピーマンを買って一緒にお料理しました」などの声が聞こえてきました。



一人ひとりまだまだ個人差も大きく興味関心もそれぞれでしたが、ピーマンの栽培活動はクラスの中の共通の喜びとなりました。そこから、ピーマンを育てる過程の表現遊びや絵具や色々な素材でピーマンの製作、ピーマン体操など、子どもたちの活動が広がっていきます。その後「グリーンマントのピーマンマン」という絵本に出会い、ピーマンは強い！という野菜のヒーロー的なイメージがどんどん膨らんでいったことにより、ピーマン色のマントを身に着けて遊ぶ「ピーマンマンごっこ」に夢中になっていきました。運動会ではピーマンマンになりきり、運動遊びを親子で楽しみ、生活発表会では、ピーマンマンごっこを通して、自分たちの経験してきたこと、友だちとの楽しさを伝えました。また、お年寄りの方が利用される施設で、運動会で行ったピーマンマンの体操などを披露することもできました。このようにピーマンという一つの物との関わりや体験がきっかけとなり、子どもたちの社会が広がっていきました。



折本小学校 「地域防災」 高橋義範教諭

5年生の子どもたちが、防災について地域や企業と関わりながら学習を進めることを通して、自助と共助の大切さを学んだ実践を紹介。



地域防災 自助から共助へ ～地域、企業とのかかわりを通して～

子どもたちと、総合的な学習の時間のテーマを話し合った結果「防災」に決まりました。クラスの一人が市民防災センターに行った経験をみんなに伝えたことから、興味をもった子どもたちは休日に市民防災センターへ行くことにしました。そこでは、煙体験や地震体験などをしました。様々な体験を通して子どもたちは「災害に備えなくては…」という想いが強くなりました。そこから、もっと防災意識を高めていきたいということで、消防署の方に簡易担架の作り方と応急処置の仕方を教えてもらうことになりました。

その後、消防署の署長さんから教えてもらったことを自分たちで理解するのではなく、みんなに伝えて

いきたいという思いが強くなってきたことから、地域防災訓練に参加しました。自分たちが学習してきたことを、地域の方へ伝える活動によって自助から共助へステップアップしていきます。



地域防災訓練の振り返りで出た「人に伝えることは難しい」「共助という面で他にできることはないか」という反省をOKフェスタに生かそうということになりました。また、防災について理解を深めるために、段ボールベッドづくりとアルファ米づくりに取り組みました。段ボールベッド作りでは、強度が弱く失敗してしまった経験から、段ボールベッドを商品化している企業から、試作品を送ってもらうことができました。また、アルファ米づくりでは、企業のアルファ米を試食した経験を生かして、手作りのアルファ米を作りました。

OKフェスタでは、非常時に必要なもののコーナー、非常食コーナー、簡易担架・応急処置コーナー、地震体験レポートコーナーを設け、学習の成果を発表しました。これらの体験を通して、自分たちができることを本気で考えた子どもたちは、自助と共助の大切さを学びました。



老松中学校 「職業体験」

柿崎順子主幹教諭 提案

老松中学校の「キャリア学習」と「いのちの教育」を柱とした総合的な学習の時間（MMO）の実践を紹介。3年間の計画的なキャリア教育で、生徒は自分自身のことだけではなく、自分たちの暮らす地域や、社会全体のためにできることは何かを考えられるように成長していきます。



横浜市の中学校の中で、職場体験を5日間行っているのは老松中学校だけです。65か所の事業所に分かれて行われる職場体験を終えた時の生徒一人ひとりの達成感は、一生の財産となっています。

ホンモノの社会に学ぶ ～職場体験を核としたキャリア教育～

自然教室



1年生は2泊3日で農業体験を行い、働くことについて考えています。

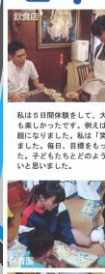
老中ハローワーク



2年生は職場体験先を自分で選択し、それに向けてマナー学習等の準備をします。

2年 職場体験

9月7日～11日



私は5日間体験をして、大変なことや疲れることもあったけれど、とても楽しかったです。例えば、みんなと遊んでいるときは疲れていても笑顔になりました。私は「笑顔、明るく、あいさつ」を目標にして頑張りました。毎日、目標をもって頑張ると終わった後に達成感がありました。

2年生の9月に横浜市でも本校だけという5日間の職場体験を行っています。

自分の将来をみつめる

- 地域の中で、社会の中で自分にできることを考える

地域貢献

社会貢献

3年生は自分の進路を選択するとともに、社会の中で自分ができるところを考えます。

生徒たちの3年間のキャリア教育を3年生の最後にまとめます。そこでは、自分の適性や長所に気がつき、自分に自信をもって進路選択をしている姿を読み取ることができます。

上菅田特別支援学校 「味噌づくり」 小田紀子教諭 ・ 星智美栄養技師

横浜市で最大規模の特別支援学校での食育の実践紹介。地域・市民・企業の方々のより専門的な知識や技術的なサポートを得た「みそ作り」の実践です。これらのサポートにより、医療的なケアの必要な子どもたちの実態をもとにした教師だけではできない豊かな体験を通した学びを実現させることができました。



豊かな体験を通した食育の実践 ～味噌づくり～

中学部1年生の26名が目、鼻、耳、そしてちょっと口を使っの味噌づくりに挑戦しました。子どもたちが自分の手で味噌づくりを経験するのは初めてのことです。みそ汁、もろキュウ、みそ田楽…地産地消を身近に感じることでできる実践になりました。

地域

市民

企業



より専門的な
知識・技術が必要です。

子どもたちの実態から、豊かな体験の積み重ねには専門的な知識と技術が必要になります。そのため地域・市民・企業と連携してい

みそ作り(中学部1年生)



みそ作りのプロ
『小泉麴屋』さん



みそ作りのプロを講師として招待しました。プロの技に子どもも教師も驚きの連続でし

仕込み完了！

熟成10ヶ月後



クラスごとに作ったみそを10ヶ月熟成。熟成期間5カ月くらいで香りがみそになりました。



花壇で育てた野菜と手作りみそでおいしいみそ汁を調理して食べました。

手づくり味噌もプロの指導で安心して食べることができました。これからも特別支援学校の教員がやってみたい授業を市民、企業の力をお借りして実現させていきたいです。

「ようこそカフェ」の取り組み

「若者の居場所づくり」 公益財団法人よこはまユース 富岡克之事業係長



- 毎週水曜日にオープン。時間は、12:00～17:30
- 場所は横浜総合高校 フリースペース
- 2016年10月5日から始める。
- 全15回実施予定 ○飲み物、お菓子は無料
- ☆目的は、交流の場づくり

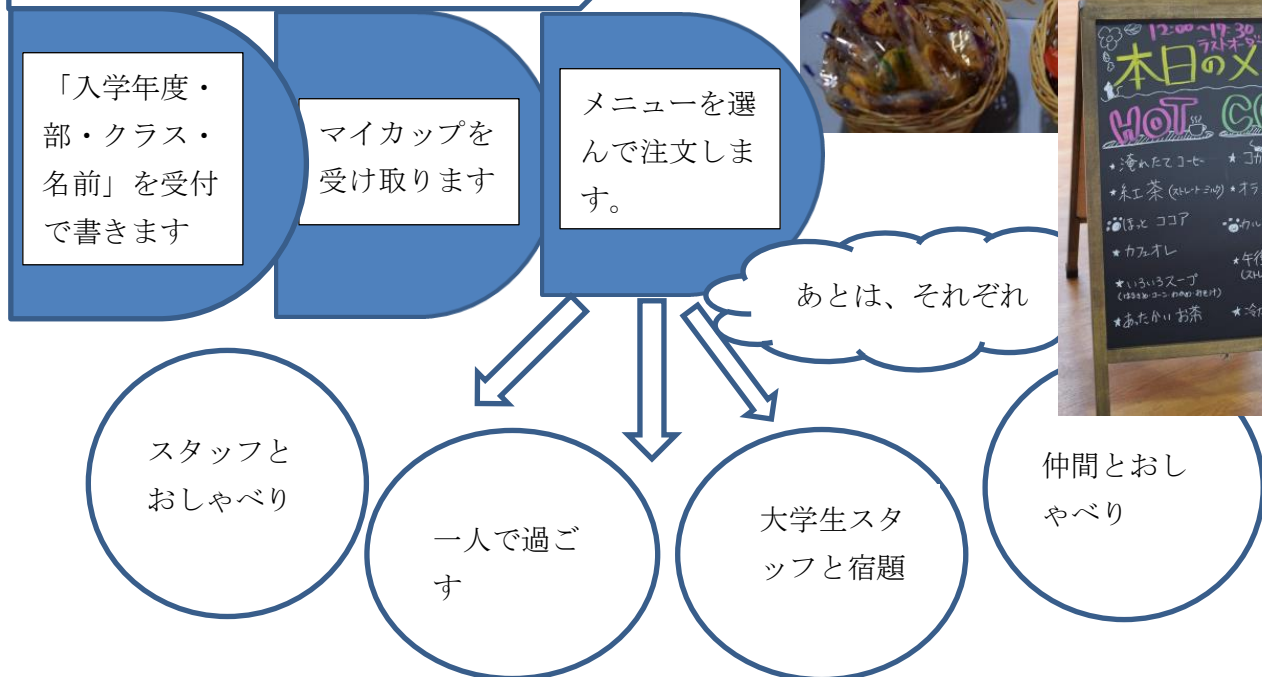


どうして、このようなことをやろうと思ったの？

生徒のおかれている環境が、様々な意味で厳しい。その中で、手をさしのべたくても、物理的な要因等で、難しい状況がある。孤立し悩む生徒たちにとって、「身近な相談の場」が必要だと考えた。

「ようこそカフェ」のコンセプトは、「居場所」＋「相談の場」である。気軽に集えるオープンな場所であり、ここでは、様々な人に出会うことができる。そして、一人でいてもいいし、誰かと話してもいい・・・つまり参加形態は自分で決めている。また、そこにいるスタッフが、相談に乗ることもある。

ようこそカフェ利用の仕方は・・・



このように、生徒たちが自然体で参加できる場所になっている。今年度、10月から始まった「ようこそカフェ」だが、1月18日までに、実施回数10回、のべ利用人数2023人、平均利用人数202人になった。また、飲食にかかる費用は1回13000円、平均スタッフ数は10人となっている。

カフェを利用した生徒の声は、つぎのようなものであった。

「カフェができてよかった」

「実家よりも安心する」

「考え方が違う人に出会えた」

「カフェで話ができ発散になる」

「居心地が良い。家に帰りたくない」

つまり、生徒たちは、「居場所」や「人との交流」を求めているといえる。生徒たちは、おしゃべりの中で、学校に話せる相手がいないことや授業が終わってから夕方のアルバイトまで居場所がないことなどを話している。また、家族との関係が悪く、家に帰りたくなかったり、家事を一手に引き受けたりしていることを話す生徒もいる。つまり、生徒たちは、いろいろな悩みを抱えているのだが、周囲に相談できる人がいないということだろう。

そして、このカフェは、生徒たちが何となく相談し、何となく集う、安心できる場所になっているといえる。スタッフから見ると、カフェの生徒たちは、自己肯定感が低く、明るくしていても、心に何らかの課題を抱えている。しかし、一方でここにまだ来られていない生徒は、大丈夫だろうかという心配もある。

カフェというアプローチは

- ・学校内という気軽さ、手軽さによる自発的な参加
- ・日常的な会話からの課題発見
- ・ひとりひとりの生徒とつながることができる
- ・生徒同士の関係性が生まれる（交流の促進）
- ・家族や教員以外の大人（地域）と繋がる場
- ・課題の早期発見から必要な相談や支援へ
- ・文化的な体験や社会資源など色々なものの受け皿

カフェの運営体制について

- ①横浜市立大学教員地域貢献活動支援事業
- ②多文化共生教育ネットワークかながわ
- ③横浜メンタルサービスネットワーク
- ④横浜市立横浜総合高校
- ⑤公益財団法人よこはまユース



情報科学専門学校生 近藤景太 ・ 一般社団法人横浜すぱいす 古川三千代理事
「 Roboc* プログラミング教育 」

「ITの楽しさを知ってほしい!」「ITへの意識を変えたい!」そんな思いをもったITの専門学校生が、横浜の小学校でプログラミング教育の授業支援を実践しました。



Roboc*の活動 ～飯島小学校、二つ橋小学校、原小学校での授業の様子～

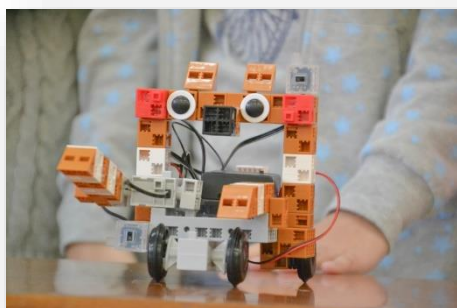
授業は3日間に分けて行われました。1日目は「ロボットって何だろう?」「ロボットはどう使われているの?」「どう役に立っているの?」など、ロボットの基本的な概要を知り、これからの活動に意欲をもつことができました。2日目は「いろんなロボットの動きの種類を学ぼう!」「実際にロボットを作って動かそう!」「オリジナルのロボットを考えよう!」、3日目は「オリジナルのロボットを作ろう!」「作ったロボットを発表しよう!」というプログラムで授業は進んでいきました。



子どもたちの反応・成果

「最初ロボットとかそんなに興味がなかったけど、この授業をやってとても楽しかったです。」「ロボットのことを学んで、ロボットの会社に入りたいと思いました。」「初めてロボットを作ってみて、想像していたよりもずっとずっと難しくて大変だったけど、チームで協力して一つのロボットを完成させられたので良かったです。」

成果として、ほとんどの児童がロボットやプログラミングといったものに目を向けることが初めてだったため、興味や関心をもつきっかけとなりました。また、グループごとに作りたいロボットを相談し、その実現に向けてみんなで問題を解決していくという過程が、主体的に学ぶ子どもの姿につながっていたのではないかと推測できます。今後も授業支援の活動を続け、学校数を増やしていきたいです。



学校地域コーディネーターフォーラム実行委員会

「地域コーディネーターの取組」

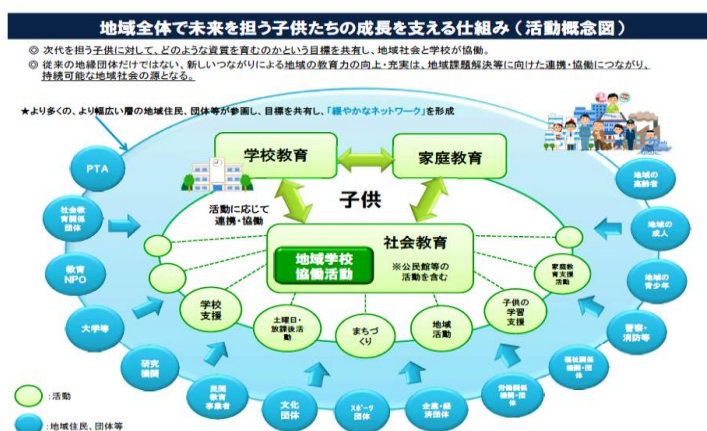
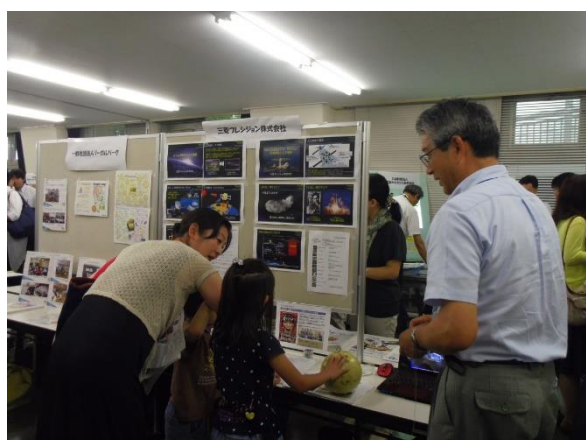
高橋由美子実行委員長



地域が学校を支援できる仕組みづくりを進めることを目的に、学校教育と地域の人材などの社会的資源を結びつける役割をしているのが「学校・地域コーディネーター」です。私たちは、日々学校支援ボランティアの調整や教育活動・地域活動の充実につながるような企画・提案などを行い、学校と地域の交流・連携を進めています。



学校によっては土曜事業を行い、「子どもや地域、保護者を結び学びをつくる活動」や現在安全が問題になっている登下校について、地域の老人会などと連携しての見守り活動、交通安全教室の企画など、学校の教職員が忙しくて手が回らない部分のお手伝いをすることがあります。



東京などでは、大きなネットワークがすでにあり、横とのつながりも充実しているのですが、横浜では、年に1度の学校・地域コーディネーターや協賛企業、学校関係者、地域の方々などが集うフォーラムで、少しずつ横のネットワークも増やしている段階です。

まだ学校・地域コーディネーターがいない学校や、ぜひ興味があるので話を聞きたいという学校は、声をかけてください。



「ブーメランを作ろう！」
NPO 法人おもしろ科学たんけん工房
ブーメランがどうして手元に戻ってくるのか、仕組みも調べます。



「地球1個分でくらすために」
富士通株式会社
タブレットを使って、エコロジカル・フットプリントとは何かを学びます。



「ゴミは宝物?!」
環境カウンセラー・エコライフ研究家 大内えりか
親子参加型の4回シリーズ。これからの地球の環境問題についてみんなで考えます。



子どもたちに多様な大人をつなげる

第4回Yokohama
学校地域コーディネーターフォーラム
～横浜らしさたっぷりの…教育支援体験プログラム見本市 & つながる交流会～

参加費 無料 09/10 Isogo

All Yokohama で
子どもたちの未来を考えよう!

日 時 平成28年9月10日(土) 午前10時～午後3時30分
場 所 横浜市社会教育コーナー (J R磯子駅 徒歩4分)
対象者 学校・地域コーディネーター 学校支援ボランティア 関係職員
学校関係者 学生 教育支援に関心ある企業・団体 その他
ナビゲーター 菅井宏益 (国立教育政策研究所 総括客員研究員)

午前の部 10時～12時
★教育支援団体のプログラム見本市
～見本市に出展している企業・大学・団体等と情報交流します～
コーディネーター向け「相談コーナー」もあります!

午後の部 13時～15時30分
★教育支援団体との交流会 (事例発表もあり!)
～ワールドカフェでの話し合いで意見交換や交流を深めます～
(ナビゲーター 菅井宏益)

第4回Yokohama
学校地域コーディネーターフォーラム
～横浜らしさたっぷりの…教育支援体験プログラム見本市 & つながる交流会～
(報告)

学校と地域をつなぐために、その入り口として「学校地域コーディネーターフォーラム」を是非、ご活用ください。

そこでは多様な立場の大人同士がつながり合い、良い関係を築くきっかけがたくさん見つかります。そこから、子どもたちのために良い学習環境づく

～横浜の子どもたちの起業家精神を育むために～

「はまっ子未来カンパニープロジェクト」

横浜市教育委員会指導企画課 後明好美主任指導主事

横浜市では、横浜で学ぶ子どもたちが未来を生きていく力をつけるために、学校と社会が一丸となった横浜らしいキャリア教育「自分づくり教育」に取り組んでいる。今回、学校と企業等の外部機関の連携のもと、子どもたちが自分たちで社会課題を解決する「はまっ子未来カンパニープロジェクト（起業家コンテスト）」（文部科学省委託事業）を始めた。

◆各学校◆

- ①横浜の子どもたちの課題感
- ②「社会に開かれた教育課程の創造はこれからの鍵
- ③「地域の方々から学ぶ機会を増やす」「実社会の中でリアルな体験を通して学びを深める」ことはマスト
- ④社会や地域で子どもたちが学習するためにつながる手段やプログラムをあまりもっていない現状

◆社会の各機関等の方々◆

- ①社会や地域、特に教育に貢献したいと考えてくださっている方々は多くいる
- ②学校の特殊性から、教育へアプローチしていただくことを躊躇
- ③学校がどのようなことを求めているのか、わかりにくい
- ④学校がアプローチしてくることもあるが、ニーズが一致しない



社会の各機関等と学校が互惠性をもって出会うことのできる場づくり

「はまっ子未来カンパニープロジェクト」

横浜市では、横浜で学ぶ子どもたちが未来を生きていく力をつけるために、学校と社会が一丸となった横浜らしいキャリア教育「自分づくり教育」に取り組んでいる。今回、学校と企業等の外部機関の連携のもと、子どもたちが自分たちで社会課題を解決する「はまっ子未来カンパニープロジェクト（起業家コンテスト）」（文部科学省委託事業）を始めた。



「はまっ子未来カンパニープロジェクト」（起業家コンテスト）に参加したのは、27校。そのいくつかの取組を紹介した。浦島小と山形県三川町役場、JAたがわとの連携では、山形県三川町の農産物販売を行った。また、横浜ビー・コルセアーズと/東山田小学校の連携では、横浜ビー・コルセアーズを盛り上げるための取組など、様々な企業との連携で、幅の広い活動が行



われた。

このような取り組みを継続的に行っていくために、「はまっこ未来カンパニープロジェクト」の事務局機能を担う団体として「よこはま子どもアントレ博実行委員会」ができた。そして、地域・企業・保護者と教育委員会・学校をつなげるイベントとなる「よこはま子どもアントレ博」を立ち上げると共に、クラウドファンディングに挑戦している。

園・学校や地域で「子どもの豊かな体験」をつなげ、広げていくために

8つの実践提案から考えてみよう



ファシリテーター

梅田比奈子名瀬小学校校長 ・ 池田孝瀬谷第二小学校主幹教諭

「8つの実践提案を受けて、ヒントになったこと、やってみたくなったことなど、実現に向けて取り組んでいくことを一つでも多くさがしてみましよう。」

みんなでワークショップ

・ 8～9名のグループに分かれたワークショップ … 全10グループ

「8つの実践」から 考えてみよう！

○園、学校からの実践報告

- ・ 釜利谷保育園「ピーマン栽培」 ・ 折本小学校「地域防災」 ・ 老松中学校「職業体験」
- ・ 上菅田特別支援学校「味噌づくり」

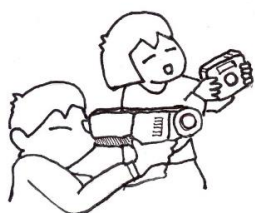
○NPO、企業等からの実践報告

- ・ 公益財団法人よこはまユース「若者の居場所づくり」 ・ 情報科学専門学校学生・一般社団法人横浜すぱいす「プログラミング教育」 ・ 学校地域コーディネーターフォーラム実行委員会「地域コーディネーターの取組」 ・ 横浜市教育委員会「企業連携（アントレシップ）の取組」

・ 横浜の子どもたちにとっての「豊かな体験を通した学びと育ち」を充実させていくために「園、学校と地域、市民、企業」がつながりながらどんなことができるのでしょうか。



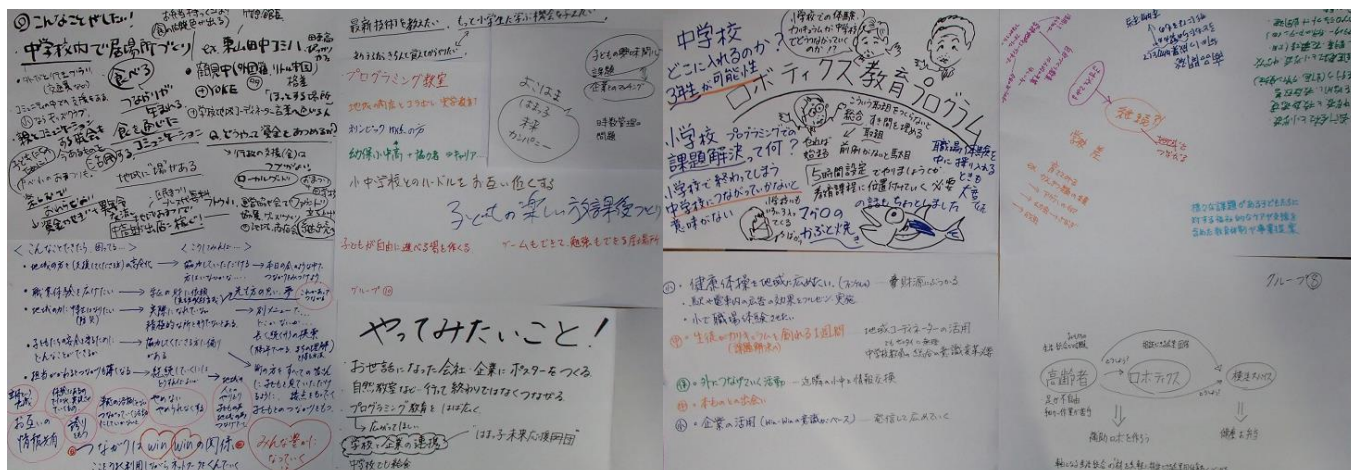
ワークショップの様子です。運営を含めて100名を超える様々なお立場の方が、横浜の子どもにとっての「豊かな体験を通した学びと育ち」を充実させていくための次の一手を真剣に考えました。会場は熱気でいっ



保育士、幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校・高校・大学・専門学校
の教員、栄養士、養護教諭、学校技術員、学校調理員、地域活動
コーディネーター、放課後キッズクラブ指導員、専門学校生、NP
O・社団法人職員、市民団体、企業市民、市役所・教育委員会職員…
横浜の子どもに関わるあらゆる立場の方々がごちゃまぜになって話し



ワークショップで出されたアイデア・意見



ワークショップでは、様々なアイデアや意見が出されました。テーマは、「つながる」「ひろがる」です。横浜の子どもにとっての「豊かな体験を通した学びと育ち」がつながりひろがるために、園や学校が、地域・市民・企業をどんな連携ができるのでしょうか。その仕組みはどのようにすればいいのでしょうか。課題として考えられることはどんなことでしょう。

○健康体操を（株）ファンケルと地域に広めたい。 ○総合実践の取組を駅や電車内の広告で効果的にプレゼン ○小学校で職場体験を実現させる ○Win-Win（双方がうまくいくようにする）意識がベースに企業と連携していく、その実践を発信して広めていく ○子どもたちが高齢者とロボティクスを通じた補助ロボットを提案する ○軸となる生活科・総合の「材」を気軽に相談できる企業・団体と多くつながる ○生徒が課題解決カリキュラムをつくれる1週間を地域コーディネーターと協働で創設する ○中学校教員の総合への意識改革を行う必要がある ○保護者との連携し地域とつながる実践を近隣の小中学校どうしが情報交換してみる ○中学校内で「ようこそカフェ」のような居場所づくりをする ○キッズクラブでの保護者との交流会をやる

○学校で行われる地域イベントで子どもたちのための資金稼ぎをする ○食を通じたコミュニケーションでつながりを生み出す ○区民まつり、地域のお祭りなどで中高生が出店で稼ぐ ○コミュニティハウスも子どもたちの居場所として活用する ○YOKKEと外国籍の多い中学校との連携を大切にする ○学校が地域とつながる活動の資金集めをローカルグッドのサポートで実現する ○学校運営協議会で学校ファンด์を起ち上げよう

○地域の商店会に協賛受ける学校の取組でグッズをつくる ○小学校でのプログラミング活動を中学校と一貫させる ○中学校の職場体験を導入したときのエネルギーをロボティクス導入に生かす ○小学校の教育課程にプログラミングを位置づけていく ○小学校の体験カリキュラムを中学校につなげていく ○地域の商店とコラボした実学教育を確立する ○幼保小中高のそれぞれが、オリンピック選手経験者とかかわるキャリア教育を展開する ○「子どもの楽しい放課後づくり」をテーマに小中学校間のハードルを低くする ○ゲームもできて勉強もできる「子どもが自由に使える場」をつくる ○子どもの興味関心と企業ノウハウとのマッチングで「よこはま未来カンパニー」を実現させる ○お世話になることのできる会社・企業の一覧をポスターにする ○学校と企業の連携を「はまっこ未来応援団」としてシステム化させる ○自然教室や宿泊体験学習などでは、行って終わりではなくつながり続ける ○先生の思いや夢から学区の材と子どもたちがつながり合う ○防災活動を通して中学生が地域の力になるために長く続く形を模索する ○町の全ての皆さんとつながりを持ち、子どもの安全を守る ○Win-Win（双方がうまくいくようにする）の関係でつながり合いネットワークを組んでいく ○子どもたちの努力を商品開発につなげて形にする ○学校地域コーディネーターフォーラムでつながり合う ○設計会社と小学校・中学校がつながり校庭改善を実施する ○園芸会社とつながった栽培活動と調理・食体験を開発する ○様々な課題のある子どもたちに対する福祉的なケアを事業として提案する ○柑橘類の種を育てアゲハの卵からの飼育観察を行う … このようなアイデア・意見が出されました。



ワークショップを行った10のグループ



グループ ①



グループ ②



グループ ③



グループ ④



グループ ⑤



グループ ⑥



キャリア教育、プログラミングとロボティクス、Win-Win、子どもや中高生の居場所、コミュニティ、高齢者と福祉、地域のお祭り、商店会、NPOや法人、放課後支援、子どもの資金稼ぎ、商品開発、食育、幼保小中の連携と一貫、地域活動コーディネーター…そんなキーワードをもとにしてどのグループでも活気ある話し合いがなされました。



グループ ⑦



グループ ⑧



グループ ⑨

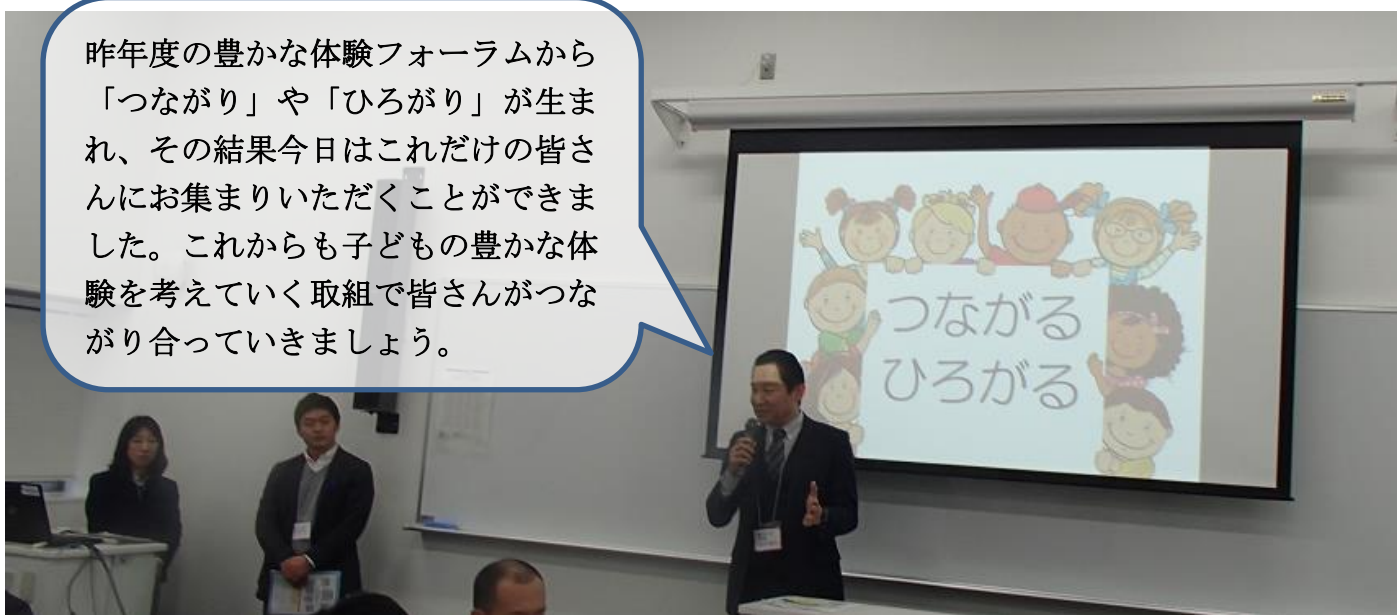


グループ ⑩



ワークショップのまとめとして、主催である一般社団法人「横浜すばいす」の北村克久代表理事より「つながる」「ひろがる」をテーマに今日の集まりをふり返って価値づけていただきました。

昨年度の豊かな体験フォーラムから「つながり」や「ひろがり」が生まれ、その結果今日はこれだけの皆さんにお集まりいただくことができました。これからも子どもの豊かな体験を考えていく取組で皆さんがつながり合っていきましょう。



実施後のアンケートでいただいた御意見を紹介します！

※フォーラムの今後の運営について考えていくために、今回初めて、学校管理職と提案者の皆様を対象にアンケートを実施いたしました。

1 会場や開催時期・時刻及び交流会の運営面につきまして御感想御意見をお聞かせください。

【会場について】

○横浜市大会場でしかも新しい校舎ということもあり交通アクセス面、施設面ではとてもよかったと思います。参加者がたいへん多かったことから会場が狭く感じられましたが、それだけ多くの方が関心をもって参加されたということだと思います。実行委員の皆様をはじめとして準備、発表された方々に感謝しています。

- ・横浜市大がとてもきれいで、びっくりしました。会場も、ちょっと狭く感じるくらいたくさんの方がいらっしゃっていて、かえってあれくらいのスペースでよかったのではないかと思います。
- ・駅から近く、きれいな会場で良かった。
- ・市大金沢キャンパスは駅に近く、大変良かった。
- ・会場は今後も交通の便、雰囲気配慮していただけるよう、願っています。
- ・懇親会の会場と近い会場の方が望ましいと思います。

○会場の横浜市立大学は、アクセスも良く市立大学を知る機会にもなり、太陽光の入る明るい会場だったので、学ぶ環境には最適だと感じました。しかし、参加者が多かったため、会場が少し手狭かと感じました。

- ・参加人数が多かったので、もう少し大きい、ゆとりのある部屋があれば、そちらの方がよいと思った。
- ・会場は、参加者数に対して、やや狭かったように思います。
- ・参加者が多く、お部屋が狭かったのが残念でした。でも、最初に参加者数をつかめるわけではないので、これは仕方なしの範囲です。
- ・会場は、もう少し広い方がよいと感じました。
- ・会場は駅から近く、集まりやすい場所でした。椅子の不足などもありましたので、もう少し広さがあると良かったです。時期や時刻に関しては良かったと思います。

【開催時期・時刻について】

○開催時期の1月は、1年間の取り組みを纏める時期でもあるので、良い報告が集まりやすいかと思います。開催時間も午後からなので、遠方の方も無理なく参加できると思いました。

- ・時間等については、午前からでは大変ですし、午後の2～3時間という設定は参加しやすいと思いました。時期も適当だと思います。
- ・会場が横浜市大であること、実施が1月21日（土）であること、とても良いと思っています。
- ・会場や日程等につきましては、たいへん良かったと思います。
- ・開催時期・時刻・運営面もよろしいかと思います。
- ・開催の時期、時刻は良かったと思います。
- ・AM開催の方が参加しやすい。（土曜実施にするなら）

【内容及び運営について】

○一昨年から参加させていただいておりますが、年々、会の内容が充実してきていると感じました。自主的な勉強会だからこそ、参加者の主体性や、自由な雰囲気の中で前向きな意見交換ができていることも感じます。一方で、会が充実しているからこそ、発表して終わり、がもったいないなあたも思います。事務局として、『横浜の時間』の考え方を全市の学校にわかりやすく発信する必要性を感じているので、そこと絡めてもう一歩進められたらありがたいと感じます。

○様々な立場の方々が集まり、情報共有・交換をする場は本当に貴重な場だと感じました。共有を超えて、ミッション型のプロジェクトとして知恵を出し解決策を協働で考えても、面白い化学反応が起きる予感もしました。

・結果論ですが、同グループの方々の話を時間的にも空間的にもゆったりと伺いたかったですし、意見交流ができたらよかった・・・と名残惜しい思いがしています。

・「豊かな体験」ですので、例年と違った工夫がなかったと思います。

○小学校と中学校の授業の繋がりを持つことが、なかなか難しいと感じました。そのため、年ごとに目的に合わせてグルーピングした方が良いと感じました。

・グループ分けが事前にされていたので、スムーズに着席できました。企業の方の参加は割合からすると少ないのでしょうか。保・小・中のグループでしたが、教育関係者以外の方のお話も伺ってみたかったです。

・ワークをするのであれば、もう少しのスペース確保と人数を少なくしても良いと思いました。机両端の方の話が聞き取れていないようで、もったいないと感じました。

・和気あいあいと話し合いを進めるのは良いことと思いますが、自己紹介の際に、一人ひとり拍手をするのは、隣のグループには、迷惑がかかっていました。

・本校の取組を紹介できる機会をいただき感謝しております。（5日間の職場体験は本校独自の歴史ある取組です）

・私自身、なかなか発表自体したことなく、とても緊張してしまい、申し訳ございませんでした。

・とてもよい勉強の機会をいただき、ありがとうございました。

・有意義な会でした。

・事務局のみなさまには、本務もある中、本当にお疲れ様でした。

当初、参加者が伸び悩んでいるようにうかがっていましたが、さまざまなお立場の方々のご参加があり、大盛況で何よりでした。予測と期待の中での会場探しはご苦労だったことと思いますが、雰囲気の良い会場でした。

2 学校等の提案・法人等提案及び交流会の内容面につきまして御感想御意見をお聞かせください。

○それぞれの発表も適度な時間設定で、間延びせず参加した立場でも内容的にちょうど良かったと思います。各発表者も設定時間に合わせて簡潔にポイントを伝えていただけたので、たいへんわかりやすかったともいます。個人的にはよこはまユースの「ようこそカフェ」の取組に関心をもち、先日、実際に見学に行ってきました。こどもたちの居場所づくりの取組は中学生から高校生においては重要な事柄であることをより実感したしたいです。お疲れ様でした。

○幼児期の活動から支援者側の活動まで、各年代に分かれた事例報告で、その年代ごとの課題や成果・効果を把握することができ大変参考になりました。また、学校関係者の方々とのつながりができたことは、大変有意義なことでした。

フォーラム後に早速、横浜総合高校のカフェを見学していただくなど、フォーラムを通して繋がり
の輪が広がっていることを実感しています。 ありがとうございます。

○横浜総合高校での取組など、全く知らない御提案があって、とても勉強になりました。また、ニーズにあった素晴らしい取組だと思いました。

「知らなかった」ではなく、「知ろうとすること」を続けなければいけないと感じました。学校以外の取組を多く発信していただけると、学校側の人間としてはとてもうれしいです。

1本1本の持ち時間が限られている中、コンパクトではありましたが、内容の濃いご提案だったと思います。事務局との調整も含め、ご準備も大変だったことと思います。

ありがとうございました。

○いろいろな立場のご提案を伺い、大変参考になりました。

今回、奥住先生に保育園の実践を提案していただき、小学校以上の方に聞いていただけて、本当に良かったです。他園の先生方にも来ていただきたかったのですが、保育所は土曜日も勤務の先生が多いこと、当日は幼稚園の教育研究大会一日が行われていることなどから呼びかけることができませんでした。申し訳ありませんでした。

- ・保育園から高校まで、それぞれの取組を知ることができて、とても有意義でした。
- ・また参加したいです。

特に、失敗に学ぶ・・・という失敗したら、それを別の学びに転換するという発表には、「なるほど」と刺激を受けました。

- ・自分自身が関わる中学校以外（幼保小など）の取組を知る機会をいただき、大変勉強になりました。
- ・学校等からの提案・報告は大変わかりやすくまとまっており、参考になりました。

○とにかく、学校関係者だけでなく、行政、NPO法人の人、ボランティアの人と、いろいろな立場の方々が一堂に会するフォーラムというのはとても魅力的でした。

○学校現場の情報も貴重ですが、特に NPO や企業、他区局からの情報提供は学校、教育関係者にとっても大切であり必要な場ではないかと考えます。

- ・やはり学校が主体の提案になると思いますが、関係する法人等の提案を歓迎したいですね。
- ・教育に関係する大学生の体験（ボランティア、実習、研究等）なども魅力があります。
- ・各立場からの提案を聞くことで、色々なことを知ることができるので、良いと思っています。
- ・民間との「交流」がなかなかできない私にとって、意見していただく内容がとても新鮮で、楽しく話し合いをすることができました。

- ・ 学校と企業等をつなぐ団体が、いくつも有ることを理解しましたが、利用者がわかりやすい、利用しやすい、共通した仕組みになっているのでしょうか？

○それぞれの提案は興味深いものでした。現実とのギャップを感じられた意見も出されていましたが、活動としてどう取り入れていけるのか等、考えるきっかけ作りになったと思います。日頃より、幼保小での発信はありますが、社会の中で保育園のことを理解していただく機会が少ないと思います。保育園での学びを中・高・社会へとつなげていくことも大切です。一つのテーマに絞って、様々な立場から考えてみるのも良いかと思いました。

○ 提案数をもう少し減らし、提案についての質問や感想を全体で共有できる時間があるとよかった。
(提案の時間も10分以内なら10分までと厳守にした方がよいかと・・・)

- ・ ワークショップで各班がどのような話をしたのか、少しでも発表していただく時間があれば、今後のよりよいつながりに発展するのではないかと思います。
- ・ 法人、委員会からの報告も貴重なものと思いましたが、やや内容が盛りだくさんだったと思います。
- ・ グループに同じ関係の人が集まらないように、いろいろな立場の方がまざるようにしていただいた方がよかった。
- ・ 企画から運営まで、本当にお疲れ様でした。このような機会で人や物がつながり、豊かな子どもの体験につながっていると確認しました。ありがとうございました。

○学校等からの提案はどれもわかりやすく、他の学校の実践にもつながるものだったと思います。一つ、お願いがあります。事務局で「横浜の時間」の今後を考えた時、課題として、「横浜の時間」の取組に関する学校間のばらつきが大きく、「横浜の時間」のとらえ、考え方をわかりやすく発信していく必要を感じているところです。

豊かな体験を通した学びは、まさに「横浜の時間」の核となる部分ですので、ここでの提案や考え方の整理を、事務局への提言のような形でまとめられないでしょうか？

それが堅苦しければ、何か別の方法でもいいのですが、せっかく皆さんの力と時間を割いて素晴らしいフォーラムをしているので、事務局による今後の方向性の検討に活かせればと思いました。ご検討いただけましたら幸いです。

- ・ 今回は学校事情により発表の時間のみ、参加させていただきました。ワークショップやその他の内容にも興味があります。当日の記録集（報告書）のようなものがあればぜひ勉強のために見てみたいと思います。

ご多用の中、アンケートに御回答いただきました皆様に心より感謝申し上げます。今後の運営に参考となる貴重な御意見を多数いただきました。

また、子どもたちにとっての豊かな体験を創り出す全ての大人たちも成長する「WIN WIN」な横浜で在り続けるために、今後も皆様方と共に何をすべきか何が出来るか考えていきたいと思います。御意見・メッセージ等がございましたら、フォーラム事務局 いずみ野小学校 柴田まで、よろしくお願いいたします。(E-mail: ko03-shibata@city.yokohama.jp)

豊かな体験を通した学びフォーラム2017 実行委員会

主催 横浜すぱいす （ 北村 克久 代表理事 ）

実行委員	池田 孝	瀬谷第二小学校主幹教諭
	梅田 比奈子	名瀬小学校校長
	遠藤 友章	南瀬谷小学校事務主事
	尾上 伸一	飯島小学校校長
	佐藤 純次	飯島小学校教諭
	柴田 耕治	いずみ野小学校副校長
	関口 昌幸	政策局政策推進担当係長
	富岡 克之	公益財団法人よこはまユース 事業係長
	三上 卓也	南台小学校教諭
	山本 朝彦	西が丘小学校校長